

仲間がいるからできること

13区営農組合(上飯樋)



右から、今野秀美さん・細川強さん・佐藤年一さん・佐藤一已さん・細川幹男さん・星代四行さん・今野一男さん。現場では無線連絡を取り合い、連携して作業を進めるそう。

地区と共に、農地の再生に取り組む13区営農組合の皆さん。この秋の法人化に向けた準備を進めています。

休耕農地をこれからどう活用していくかが、地区の大きな悩みでした。「このままでは荒れていってしまう。誰かがやらなければ」。区内の話し合いが続く中で、立ち上げられたのが、この組合でした。メンバーの皆さんは、「できることから」を合言葉に、農地の集約と再生に取り組み、用排水路の清掃にも汗を流しています。

10年間の契約で区民から借りる約100ヘクタールの農地は、今後も広がる見込み。来年からは、牛の飼料用米、ホールクroppサイレージ(青刈稲)、牧草を栽培し、供給していく計画です。「地区や、農地を貸すことに賛成してくれた人達の気持ちを考えながら、事業を発展させていきたい」。法人に参加する7人の区民は全員が理事として役割を受け持ちます。

代表の細川強さんは、「この7人だからできている。俺じゃないんだよ」ときっぱり。「重機の資格も皆で取った。事業の後継者も育てたい」。緑肥として植えたヒマワリが集落を染めています。このヒマワリが農地にすき込まれたら、いよいよ新しい挑戦の始まりです。「夫婦同伴の旅行に、皆で行こう」と話している。農業で、かつての夢を、もう一度追いかけてみるよ」。

〈編集後記〉

●村には、多くの方々が視察研修に訪れています。震災からの復興やこれからの村について、知りたい、学びたいと足を運び、自分の目で見て学んでいかれます。視察に来たある方が帰り際に「飯館村は、前を向いて歩んでいるのですね。ひまわりのように」。ひまわりの花言葉は「あなただけをみつめる」。村内に咲く大輪のひまわりのように、しっかりと前を見つめていきたいものです。(木幡)

●村内では、アジサイも、とてもきれいに咲いています。雨の多い(と言うかちよと多過ぎの)今年の梅雨が気に入ったのか、例年以上に花が付き、色も濃くて鮮やかな気がします。手入れをされている方々に感謝をしながら、毎日あちこちで車を停めて眺めています。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

HOPES

ホープス セカンド
2nd